

# 論文博士の学位授与申請に係わる審査報告書

|         |   |
|---------|---|
| 氏名（本籍）  | 靳 志朋（中国）                                    |
| 学位の種類   | 博士（中国研究）                                    |
| 報告番号    | 乙 第 29 号                                    |
| 学位授与年月日 | 平成 30 年 3 月 20 日                            |
| 学位授与の要件 | 学位規則第 4 条第 2 項該当                            |
| 論文題目    | 文化归宗，权利抗争与政治认同—近代台湾白话书写研究                   |
| 審査委員    | 主査 黄 英哲<br>副査 松岡 正子<br>副査 桑島 由美子<br>副査 馬場 毅 |

2019（平成 30）年 2 月 13 日

愛知大学大学院中国研究科

## 審査の結果の要旨

本博論は、近代台湾白話書写を選題として、“大中華”の民族叙事の視角から、構造的に文体、国体、国民の間の多面的な相互作用を、日本の植民地統治時期、戦後初期の台湾白話運動と文化アイデンティティ、中国回帰、権利意識とその成長、政治アイデンティティでの動揺、現代民族国家の構築等の論点を通して、その曲折に満ちた関係について、表現している。

本博論の評価すべき点：

### 1 研究視野が広範である。

現代白話は、漢民族共通の書面語であり、大陸の台湾に対する中華文化アイデンティティとの重要な靱帯を維持している。論文に於いて作者は極力、微視的、巨視的視点を結合させ、台湾一地域に限定せず、「大中華」の理念に基づいて、近代台湾地域の白話書写運動を大陸白話運動の延長と見なしている。

「近代という変局」を白話書写運動の歴史的背景とし、フランス革命前後、日本の明治維新の後の「自由民権運動」に於ける文体変革にも着目し、広大な学術的視野を具えている。日本植民地統治時期の複雑な言語現状を焦点化しており、植民地政府当局が強制的に日本語教育を推進したことにより、伝統的知識人階級が唱導した古詩文、台湾の新文学発展趨勢を代表する中国話文、台湾の主体意識を体現する台湾話文に極めて甚大な圧迫を加え、併せて戦争後期の、皇民化運動の怒濤は、漢族の書面語への取り締まりを強化した。戦後、台湾が中華民国に回帰するに至り、国民党当局による国語運動を経て、漸く現代漢語の主体的地位を回復するのである。大陸に比べて台湾の白話書写運動はより多くの困難と曲折を経たといえる。

### 2 研究方法の多様性

論文のテーマは、学際的な特徴を具えており、歴史学、文学、言語学、メディア研究、政治学、社会学、教育学等、多岐に渡っている。そのため研究方法に於いて、一学問領域の限界を突破しており、他学科の方法と概念を参考にしている。歴史学の文献解読においては、関連する歴史档案を精査、援用して、歴史を再構成している。言語学の方法論としては、現代白話の語彙概念と語法に分析を加えている。新聞学の視点から、白話報刊『台湾民報』による公共世論とメディアの反響について詳述している。政治学の領域では、「民族自治」「国族」「権利」「国体」に関連する概念の領域について定義し、文学的方法の運用では、台湾白話運動の文学想像と、その歴史的意義について、考察している。この他に、比較研究の方法論、中国と国外、大陸と台湾の対比なども試みられている。

### 3 鮮明な問題意識

研究過程に於いて、終始一貫して鮮明な問題意識が看取される。近代台湾の白話書写運動と中国大陸は如何なる関係にあるのか。それは台湾の政治的運命と如何に相呼応し、それを推断し、演繹するのか。また近代台湾人の複雑且つ曲折した心理過程を如何にして反映できるのか。正しく、この様な問題意識によって、各章、文章構造の合理性と、深い論理性を企図している。

### 4 史実への深遠な傾倒

論文は極力、歴史の現場に立ち返り、人物や事件に対して理解と同情の態度を示している。近代白話書写を一つの糸口として、日本植民地統治時期の植民地当局の苛酷な抑圧の下、民族精神と文化使命を兼ね備えた台湾知識人達が、現代の新文化と台湾文化の主体性について、追尋し、探索している。台湾人の権利意識の萌芽とともに、漢族知識階級は植民地当局に対して一連の抗争を進めていった。戦後初期台湾は植民地統治から脱却し、国民党当局が推進した国語運動を通じて、最終的に民族的アイデンティティを完成させる。

本博論の改善すべき点：

近代台湾の白話書写運動と中国大陸の新文化運動とは密接な関係があり、言語風格の上でも似通った点と、明晰に異なる点があり、鮮明な地域的特性が見られる。また特殊な歴史的境遇によって塑造され

た文化的内涵と精神的品格がある。今後は両者の掘り下げた比較の展開が望まれる。

#### 審査結果

12月8日（金）に愛知大学名古屋校舎 M402 教室と南開大学とで RMCS を利用した口頭試問が行われた。口頭試問では、審査委員からの質問に対して、的確な回答が得られた。その後、本審査委員会では、本論文及び口頭試問に基づき審査を行い、全会一致で本論文を合格とする結論とした。

以上